小・中学校再編にかかる地区意見交換会（直川会場）

１ 日時　　令和８年９月２５日（金）　１９時～２１時

２ 場所　　直川地域コミュニティセンター

３ 参加者　　３０人

４ 事務局　　都留教育長、神崎教育部長、御手洗教育総務課長、吉田学校教育課長
　　教育総務課職員　４人、学校教育課職員　１人

５ 次第

（１）開会

（２）教育長あいさつ

（３）佐伯市立小・中学校再編（案）について
- 今回の説明会の趣旨とこれまでの経過
- 小・中学生の現状と今後の見通し
- 学校の再編に関するアンケート調査結果について
- 学校再編することのメリット・デメリット
- 適正な学校規模の考え方
- 小・中学校再編（案）
- 中学校再編後の学校規模
- 小学校再編後の学校規模
- 小・中学校再編までのスケジュール案

資料を基に上記の項目等ついて説明

（４）質疑応答・意見交換

（５）閉会

6 質疑応答・意見交換の内容

※個人が特定されるおそれのある発言等については、個人情報保護の観点から、一部を編集・省略して掲載しています。

発言者	発言内容
参加者	良い教育とは何かというところを、皆様がどのように考えられているのかをお聞きしたいと思っております。 教育の方法もさまざまな考え方がある中で、先ほどは学習指導要領に沿った教育についてご説明いただきましたが、佐伯市の教育を担う皆様が、これまでの教育経験などを踏まえて、次世代を担う子どもたちにどのような教育をしていきたいと考えているのか、そうした考えを伺いたいと思います。 また、教育の向かう先について、これまでは良い成績を取って良い大学に進学するなど、良い結果を出すことが求められてきた面もあると思います。一方で、不登校の児童・生徒が増加する中、現在の教育のあり方についてさまざまな課題があると感じています。 これからの未来を担う子どもたちに、どのようなことを伝えていくのか、そもそも教育とは何なのか、そして「この道を進めば幸せになれる」と自信を持って言えるような教育が本当にあるのか、そのような点についてお話を伺いたいと思っております。
事務局	「良い教育とは」というところで、かなり幅の広いご質問をいただいたんですが、資料の 7 ページに教育委員会の学校教育指導方針という形で書かせていただいている四角囲みの部分があると思います。ご存じの通り、未来を見たときに答えのない多様な価値観のある世界に子どもたちがこれから入っていくと思っております。その上で佐伯市教育委員会としてこういう子どもを育てたい、目指す子ども像というのは 2 つあります。1 つ目が『自分の考えを持ち、自分の言葉で表現できる子ども』。きちんと自分の考えを持った上で自分の言葉で自分の思いを表現できる子どもを育てていきたいというのが 1 つ。もう 1 つが『自他を大切にし力を合わせて活動する子ども』。隣にいる子どもや周りの友達を大切にしながら、大人で言ったら周りの方々を大切にしながら、そこで協力して活動し、答えを見つけていく子どもを育てていく。これが良い教育を目指す子どもの姿だと考えております。 向かう先についてですが、子どもたちが答えのない、価値観の多様化した世

	界に入っていきますので、1 つは自分で問いを持って自分で解決できるような子ども、大人に育っていってほしいというところがあります。もう 1 つは社会的な自立です。自分たちの力で自立していく、いろいろな荒波に揉まれることがあると思いますけど、その中できちんと自立して大人として、社会人として自立していくというところはとても大事なところだと思います。 小・中学校の間はここに掲げております目指す子ども像を目指して私たちが信じて教育していくというところと、未来に向かっては社会的自立という部分もとても大事になってくるのかなと考えております。
事務局	先ほど言ったことと重なるかもしれませんけども、今、佐伯市の子どもたちの課題が 3 つあります。1 つが自己肯定感を持てない子どもが結構いるんですね。自分のことが好きという子どもがコロナ禍以降なかなか回復しないんです。大人になるにつれて、自分のことに自信が持てる子どもを増やしていきたい。そのためには自分と他人が関わる機会をたくさん持たないと、自分のことを客観的に見られない。自分一人、あるいは数人との関わりでは自分が何者なのかがなかなか理解できない。できるだけ多くの子どもたち、仲間と関わる中で自分の存在感というのが分かってくるんですね。ですから一定の集団との関わりというのが必要になってくる。これが自己肯定感を高める 1 つの鍵だと考えております。 もう 1 つが、社会的な自立を促すというところで、子どもですから人に頼るというのは当たり前かもしれませんけども、教師も親も、小学生から中学生になるにつれて手を離していかなければいけない。そこに自立心が芽生えていくんですけども、自立を促していくためにはその間に同じ仲間がいるんですね。大人と親だけではなかなか手が離れない。その間に仲間を入れたい。そこには集団も必要ですし、友達も必要です。自立心を促していくというのが良い教育だと思いますし、これからの教育の向かう先だと思っております。最終的には探究心ですね。これからの世の中何が起こるか分からない。生きていくためには探究してどうすれば解決するかという解決方法を自分で見出す、あるいは仲間と一緒に解決方法を見出す。その探究心を育む教育がこれから大事ですし、それを芽生えさせていくことが一番大事だと思います。ですから心の中にあるキーワードは探究です。これは小学生も中学生も高校生もレベルは違っても共通だと考えております。
参加者	子どもたちのこれからを考える上で、学校のあり方を考えていくことは、とても必要なことだと感じています。一方で、今回の進め方については、少し

	疑問を感じています。保護者や地域の方に十分な説明や意見を聞く前に、新聞等で具体的な統廃合の時期や内容が報道されました。保護者としては、まず地域や保護者への説明があり、その上で報道されるという順番ではないかと感じています。学校は子どもたちだけのものではなく、地域にとっても大切な場所です。だからこそ、統廃合という大きなことを決めるのであれば、地域や保護者が知らないうちに話が進んでいたと感じることがないようにしていただきたいと思います。今後、どの段階で、どのように保護者や地域の意見を反映していくお考えでしょうか。また、今回の意見を踏まえて、現在の再編案やスケジュールが変更される可能性があるのかについてもお聞きしたいと思います。私たちも、子どもたちにとってより良い学校の形を一緒に考えていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。
事務局	今回の進め方について、新聞等で先に報道があった件についてご説明します。説明会に回る前に、市議会等で今後説明会を開催することを報告したところ、その内容について新聞社が先に記事として報道したものです。市から新聞社に情報提供したということではなく、報道が先行した形となりました。結果として、説明会の前に新聞等で一般の方が知ることになった点については、配慮が必要だったと考えています。今後の統廃合については、本日から約 1 か月をかけて、各地区の 18 小学校区を回り、説明会を開催する予定です。そこでいただいたご意見等については、検討協議会に持ち帰り、各地域の意見や課題を踏まえて協議していく予定です。現在お示ししている再編案や統合の時期については、確定したものではありません。皆様に説明し、ご意見を伺うにあたって、具体的な案やスケジュールを示さなければ、何について意見を求めているのか分かりにくくなるため、現段階では一つの案としてお示ししています。今後、各地域からいただいたご意見を踏まえ、改めて協議していく予定です。
参加者	直川小・中学校学校はこの地域にとってとても大切な存在です。子どもたちとの関わりが何より大切であり、児童・生徒数が多いか少ないかということだけではなく、地域にとって大切な学校であると考えています。地域から学校がなくなることについては、簡単には考えられません。2 点ほどお聞きします。先ほど、検討協議会の委員は 20 人とおっしゃいましたが、その中に、郡部の方はどの程度含まれているのでしょうか。これまでも市の施策等について、中心部での議論が中心となり、郡部の意見が十分に反映されていないと感じることがあります。検討協議会においても、郡部の地域の方を入

	れていただきたいです。また、先ほどから説明を聞いていると、学校再編について、まだ十分に熱意や思いが伝わってこないように感じています。案として示しているのであれば、案として、自信をもって出していただきたいです。直川小学校は、上野小学校へ統合する案が示されていますが、統合によって児童・生徒数が大きく増えた場合、そこで本当に良い教育ができるのでしょうか。その点についても疑問に感じています。
事務局	協議会のメンバーについてですが、今回の協議会には、学識経験者、教育機関の長、教育関係団体の役員、児童クラブの代表、地域学校協働活動推進員、家庭教育講師団などが入っております。各地域の代表といった形では入っておりません。PTA 関係者など、地域の方も何人かいらっしゃるのは事実ですが、各振興局管内から 1 名といった人選は行っておりません。 直川小学校の子どもたちが上野小学校へ統合するという案についてですが、先ほどお話しさせていただきましたように、佐伯市としては「自分の考えを持って、自分の言葉で表現できる子ども」「自他を大切にして、力を合わせて活動できる子ども」を目指しております。そこに焦点を当てて、より良い教育をしていくためには、一定程度の人数の児童・生徒が必要ではないかというところから、この案を出させていただいております。現在、直川小学校はかなり児童数が減ってきておりますので、切磋琢磨しながら子どもたちが協力していくというところに焦点を当てたとき、上野小学校に行った子どもたちが、より良い教育を受けて成長を遂げていくのではないかという考えを持っております。
参加者	本日は教育長にお越しいただいていますが、市長がいらっしゃらないことは残念に思います。市長が「こどもがまんなか」という政策を掲げる中で、今回このような案が出てきて、どのような考えなのかとお話を聞いていました。先ほど、より良い環境で教育を受けさせたいというお話がありましたが、現在この地域の学校に通っている子どもたちが、より良い環境で教育を受けられていないと思われているのかなと感じてしまいます。子どもたちは幼い頃から兄弟のように一緒に育ってきており、私はとても良い環境で教育が行われていると思っていました。それを、今の環境では十分ではない、あるいは自分の言葉で表現できる子どもに育たないと言われているように感じ、腑に落ちないところがあります。今回このような案が出され、保護者も今後どうなるのか、地域の方も子どもがいなくなった後の地域がどうなるの

	か、不安を抱えていると思います。しかし、一番不安に感じているのは子どもたちではないかと思います。子どもたちからも、「どこに行くのか」「どの学校に行くのか」「行きたくない」「友達と別れたくない」といった声を聞いています。こうした状況が、本当により良い教育環境づくりにつながるのかと感じています。もっと地域の子どもたちが、普段どのような活動や生活をしているのかを、実際に見ていただきたいと思います。データ上で、一定程度の人数がいなければ教育ができないというお話もありましたが、実際の子どもたちの姿を見ると、必ずしもそうではないのではないかと思います。 1 点お聞きしたいのですが、令和 12 年に昭和中学校に統合する予定となっていますが、 例えば直川中学校に 1 年、2 年と通って、12 年になったらそのまま昭和中に移行するのですか。
事務局	例えば、学年の途中で 1 年生まで現在の学校にいて、2 年生から統合先の学校に行くのかということですね。この案では、統合する年度になったら全学年が統合先の学校へ行くということになっております。そのため、1 年生は現在の学校で、2 年生から統合先の学校へ行くという学年も出てくる予定です。
参加者	資料の中のデメリットに「地域の人と学校に関わる機会が減り、つながりが弱くなることが懸念される」と書かれています。学校がなくなった場合、現在でも過疎化が進んでいる地域がさらに過疎化するのではないか、地域自体が弱くなるのではないかということも踏まえた上で、今回の案が提案されているのかをお聞きしたいです。また、協議会の 20 人の中に児童クラブ関係者もいらっしゃるとのことでしたが、上野小学校に統合された場合、放課後の児童クラブはどのような形になるのか、決まっているのか、あるいはどのように想定されているのか、詳しくお聞きしたいです。
事務局	地域とのつながりや地域がどうなるかという点については、デメリットに記載したとおり、私どもも懸念材料として考えております。直川小・中学校に通う子どもたちや先生方がこれまで地域と関わってきた部分がなくなることは、非常に懸念されるところです。上野小学校に行ったとしても、直川に住んでいる子どもたちが地域との関わりや学校とのつながりを持てるよう、努力していきたいと考えております。その懸念を払拭できるような活動を、学校や教育委員会として行っていくべきだと考えておりますので、ご理解いた

	だきたいと思います。 児童クラブについては、具体的に学校ごとの人数を把握した上での対応など、詳細なところまでは、まだ案の段階ですので詰め切れておりません。上野小学校へ通うことになれば、スクールバスやタクシー等で送迎することになりますので、直川へ戻ってきて、こちらで児童クラブを行うといったことも可能だと考えております。一方で、上野の児童クラブを利用したいという方が出てくると、直川の児童クラブの利用人数が減ることも懸念されます。直川地域について、具体的にどちらで児童クラブを行うかなどは、現時点では決まっておりません。
参加者	何点かお聞きしたいのですが、直川が統合した場合、上野小学校と昭和中学校を予定しているとのことですが、私の記憶では、両校ともかなり校舎が古いと記憶しております。これは、校舎の改修を前提とした統合案なのでしょうか。それと、人数が多くなれば先生たちの目が児童・生徒に届きにくくなるのは当然で、いじめや、それを起因とした不登校などの問題が出てくると思います。大人数の中で切磋琢磨させるよりは、自分たちが安心して過ごせる環境で、伸び伸びと育てたいと思っています。今の直川であれば、小学生から中学生まで、みんながお互いに顔を知っていて、声を掛け合える環境です。そういった環境の中で伸び伸び育てたいと思うのも、親としての思いです。大人数でなければ教育ができないというのは、違うのではないかと思います。大人数になれば、いじめのリスクも高まるのではないかと思います。集団の中では、合う子と合わない子が必ず出てくると思います。人数が多ければ良いという問題ではないと思いますので、安易な統合は違うのではないかと考えております。そのあたりをどのようにお考えかお聞かせください。
事務局	統合先の上野小学校と昭和中学校の改修についてですが、今回の統廃合にあたっては、大規模な改修は基本的に考えておりません。著しく老朽化した部分について、一部改修を行う程度のリノベーションを想定しております。 また、人数が多くなることによる懸念は当然あると思います。少人数の良さを生かした学校教育についても、十分認識しております。人数が増えることで、いじめや不登校、支援が必要な子どもへの配慮が薄くなるのではないかというご心配は、そのとおりだと思います。統合した学校でどのような支援ができるのか、子ども一人ひとりをしっかり見ながら、安心して安全に通える学校をどのようにつくっていくかについては、十分に議論していく必要があります。いただいた懸念はしっかり受け止め、対策を検討していきたいと

	考えております。ある程度の人数を確保することが大事だとお話ししましたが、少人数の良さを否定するつもりは全くありません。少人数の良さも十分に感じた上での提案でありますので、人数が増えても一人ひとりを見る目が薄くならないよう議論を重ねてまいります。
参加者	お話を伺っていると、答弁が「統合ありき」のスタンスに感じられ、違和感があります。先ほどの発言に対して、教育長のお考えとは違っていたとしても、「こういった子育てをしたい」という人たちの教育の場をどう担保するのかという視点に立ち戻るような答弁があってもよいのではないでしょうか。「意見は聞きましたが、前に進みます」と受け取れるような進め方に違和感を覚えます。また、地域愛についてですが、都市部と地方のギャップを乗り越えなければ、地方は消滅してしまうと考えています。生産効率や表現の上手さばかりを追い求めると、博多駅や東京駅の二番煎じのようになり、地域固有の文化が失われてしまいます。直川の良さを残し、次世代が育つ環境をつくっていかなければなりません。教育予算の削減が発端なのかもしれませんが、文化や教育は経済合理性とは切り離して考えるべきだと思います。経済性ばかりを求めると、文化や教育は後回しにされてしまいます。子どもの幸せや地域愛を残すために、市の歳出全体を見直し、教育に予算を充てるような議論があってもよいのではないでしょうか。子どもの幸福や予算配分も含めて、議論のテーブルに乗せていただきたいと思います。
事務局	経済的な面についてですが、学校の通常の一般管理費自体は、それほど大きなものではありません。ただし、施設の設備が壊れた際には、何百万円、何千万円という大きな修繕費が発生します。今回の統合によって通常経費が大きく削減されるかというと、統合によってスクールバスの運行経費（1 台あたり 600～700 万円など）が新たに発生するため、経常的な経費自体はそれほど大きく変わりません。ただ、例えば市内全校にエアコンを設置する事業などを行う際、佐伯市には 30 校ありますので、全校を一斉に整備することが難しく、数年かけて順次進める形にならざるを得ないという状況は、合併以来続いております。
事務局	地域愛や地域とのつながりについてですが、以前、蒲江の 6 つの小学校が統合して蒲江翔南学園になった際にも、同様の声がありました。そこで現在どのようにしているかというと、コミュニティ・スクールや生活科・総合的な

	学習の一環として、「里帰り学習」を実施しています。旧校区の浦々に出かけて清掃活動をしたり、地域の方と触れ合ったり、みかんの収穫を体験したりしています。かつてのように毎日そこに学校がある状態とは異なりますが、地域の方々と触れ合いながら、つながりを維持する取組を行っております。こうした活動を今後も大切にしていければと考えております。
参加者	今年の秋に直川こども園の入園申込みを考えているのですが、小学校が統合される場合、こども園や幼児教育・保育施設についても再編の予定があるのでしょうか。4 年後に統合されるとなると、子どもが年中のときに小学校が移転することを見越して、最初から弥生などの園に通わせた方がよいのか悩んでしまいます。こども園の再編計画や、小学校との関わりについて教えていただきたいです。私自身も直川で育ち、直川のこども園や小中学校に通いました。人数が少ないことで関わる機会が限られる面もありますが、先生や地域の方、異学年との関わりの中で社会性を身につけることができ、直川で育って本当に良かったと思っています。地域との関わりがなくなってしまうのは悲しいので、再編についてもう一度考えていただきたいです。
事務局	こども園や保育園の統廃合についてですが、私ども教育委員会には、直川こども園を廃止するといった情報は入っておりません。こども園の所管はこども福祉課となりますので、将来的な計画の詳細については把握しておりませんが、現時点ですぐに無くなるといった話は聞いておりません。
参加者	今回の学校再編を踏まえると、現在、就学前の子どもがいる家庭としても、今後の進学について非常に心配しています。学校の統合によって、地域の子どもたちが少人数で小学校に入学するような状況も考えられる中、保護者として、どのような選択をすればよいのか悩むところがあります。学校の再編を進めるにあたって、幼児教育と小学校教育のつながりや、就学前から小学校入学後までの子どもたちへの配慮について、どのように考えているのかお聞きしたいです。
事務局	おっしゃるとおり、学校再編に伴い、小学校入学前の子どもたちの同世代との交流や進学環境について、ご心配が出てくることは理解いたしました。幼児教育の交流や連携については、地域によって園の運営形態なども異なることから、現時点では、そこまでの検討には至っておりません。今後、持ち帰

	りまして、こども福祉課等とも協議しながら、課題として検討してまいりたいと思います。
参加者	アンケート調査の結果で全体の回答率が 44%とありましたが、学校がなくなることへの危機感を持っている地域の方の回答率は高く、市内中心部の方は低いのではないでしょうか。地域ごとの回答率や数値を明確に示していただかないと、本当の危機感や実態が見えてこないのではないかと思います。また、蒲江の里帰り学習のお話がありましたが、直川でも行われている『通学合宿』はご存じでしょうか。子どもたちが地域で見守られ、社会性を学ぶ素晴らしい取組です。地域への感謝や地域愛を育む活動が、統合によって無くならないようにしていただきたいです。ぜひご検討をお願いします。
事務局	アンケートの地域ごとの回答率については、手元に詳細な数値を持ち合わせておらず、申し訳ありません。学校ごとの回答者数などは資料に掲載しておりますので、本日はそちらをご参照いただきたいと思います。 通学合宿については、直川を訪問した際にお話を伺いましたし、新聞記事も拝見しました。地域の方々が子どもたちを見守り、子どもたちが地域に感謝する素晴らしい取組だと実感しております。統合後も、それに引けを取らないような、地域と共に歩む学校づくりや活動を継続できるよう、検討してまいりたいと考えております。
参加者	子どもたちの声をそのままお伝えしますと、子どもたちの間でも学校の統廃合の話が話題になっており、「自分が直川中に入って卒業するまでの間に、下の学年が１人も入ってこないのではないか」と心配している子どもたちがいます。それなら、最初から他の中学校に行こうかと話している子どももいます。子どもたち自身も複雑な思いを抱えながら過ごしているという現状をお伝えしたく、発言いたしました。
事務局	貴重なご意見として承ります。ありがとうございます。
参加者	統合予定の頃には卒業しているため、直接は関わらないかもしれませんが、今回の案を聞いていて、ある程度の人数を集めるために、一気にまとめすぎているのではないかと感じます。宇目や蒲江は通学時間の関係で対象外との

	ことですが、直川は一気に統合される形になっています。小学校がどうなるのか分からないという不安があると、最初から弥生へ引っ越そうという人が増えて、ますます過疎が進んでしまうのではないでしょうか。統合はやむを得ない部分があるとしても、一度に進めすぎではないかと思います。
事務局	宇目と蒲江につきましては、通学時間が 1 時間を超える可能性があるため、現時点では対象外としております。「一度に進めすぎではないか」という点につきましては、小学校は 1 学年 20 人程度、中学校は 1 学年 2 クラスという規模を目指して検討した結果、2 校や 3 校を合わせても 20 人に満たない地域があり、結果的にこのような組み合わせの案となっております。ご理解をお願いいたします。
参加者	お話を伺っていて、再編による直川側のメリットがあまり感じられません。資料にあるメリット（授業研究の活発化や専門教員の配置など）は、直川では小中一貫教育などですでに実現できている部分もあります。再編によって直川の学校がなくなり、これまで築いてきたものが引き継がれずに消えてしまうのではないかと危惧しています。少人数だからこそ、全員が役員を務めたり、発言したりする機会があり、積極的に動く力が育ちます。高校に進学すると、大人数であるために、そうした機会が限られてしまうこともあります。また、直川は面積が広いため、通学時間も大幅に増えます。子どもたちにとって本当にメリットがあるのか、疑問に思います。
事務局	小規模校の良さについては私どもも十分に認識しております。直川で行われているきめ細やかな教育や運動会での素晴らしい姿も拝見しております。それを否定するつもりは全くありません。一方で、一定の集団規模の中で多様な仲間と学び合う良さもあると考えており、双方の良さをどう生かしていくかを考えております。小規模校での教育の良さを統合後も継続できるような手立てを検討してまいりたいと考えております。
参加者	どう伺っても「再編ありき」の回答に聞こえてしまいます。もし再編するのであればこうするという案の提示であり、メリットがないのであれば、一旦フラットに戻して考えるべきではないでしょうか。すべて再編を前提とした回答になっている点に疑問を感じます。

事務局	再編案を提示している立場上、案が実現した場合を想定したお答えになってしまい、その点については、説明の仕方を工夫しなければならないと感じております。しかし、決して決定事項として押し付けているわけではありません。いただいたご意見はすべて検討協議会に報告し、改めて審議していただく流れとなっております。
参加者	再編ありきに聞こえるという点について、9月9日付の大分合同新聞の一面に『避難所となる学校体育館の冷房未設置』に関する記事がありました。そこに佐伯市教委の担当者のコメントとして『閉校するのに冷房をつけていいのかという考えもあった』と記載されています。まだ案の段階であるはずなのに、公に『閉校するのに』と言い切っているのはおかしいのではないでしょうか。これでは市民から見れば『最初から閉校ありきで進めている』と受け取られても仕方ありません。新聞社に訂正を求めるべきではないですか。
事務局	新聞記事につきましては取材を受けたことは事実です。当時、まだ決まっていない旨をお答えしたのですが、前回の統合記事の流れからそのような表現で書かれてしまったものと思われます。私どもからはっきりと閉校と申し上げたわけではありません。
参加者	であれば、新聞社に対して訂正を申し入れたのでしょうか。
事務局	申し入れは行っておりません。
参加者	記事を読めば閉校が決まっているように見えます。 今からでも新聞社に訂正を求めてください。
事務局	その件については新聞社の方へお話ししてみたいと思います。
参加者	なぜ統合したいのかという本質が、見えなくなっているように感じます。大人数での教育が良いという前提だけでなく、創意工夫によって学校を存続させている地域もあります。例えば、島根県海士町の島留学、くす若草小学校、宮崎県えびの市の飯野高校のように、全国から子どもたちを集めて特色ある学校運営を行っている事例がたくさんあります。なぜそうした地域で実現できたのかを研究し、直川小中学校を存続させるために、誰がどのように動けばよいのかという前向きな議論があってもよいのではないでしょうか。

	そうした調査や研究はされているのでしょうか。
事務局	若草小学校など、特色ある教育によって全国から子どもたちを受け入れている事例は存じ上げております。佐伯市内でも、本匠小中学校が小規模特認校として、校区外や大分市からも通学できるようになり、特色ある学校づくりを進めております。他自治体の先進事例について、網羅的な調査研究までには至っていない部分もありますが、特色ある学校づくりという視点についても参考にしていきたいと考えております。
参加者	皆さんの意見を聞いていて、再編を説得して押し通そうとしているように感じられます。統合による子どもたちへのメリットが見えません。今、直川に通っている子どもたちに、4 年後に統合するからと言っても、納得できる説明ができないのではないかと思います。子どもたちが、家庭の都合などによって友達と離れ離れになってしまう心配もあります。一度この案を持ち帰っていただき、白紙というかフラットな状態に戻して、子どもたちに明るい未来を示せるようにしてほしいです。
事務局	「白紙にしてほしい」というご要望ですが、本日の意見交換会は、案を提示して皆様のご意見を伺う場です。いただいた「白紙にしてほしい」というご意見も含めて、検討協議会にすべてお伝えし、協議会の中で判断していただく流れとなっております。私の権限で、この場で白紙にすると申し上げることはできませんので、その点はご了承いただきたいと思います。
参加者	本日出た意見のほとんどが、再編に対する懸念や反対の意見だったと思います。入園前・入学前のお子さんがいる家庭でも、今後の動きを心配されています。この意見交換会が全地区で終わるまでに 1 か月以上かかりますが、今日出た生の声や心配事を、ぜひ検討協議会に伝えていただきたいです。直川の学校には、現在でも素晴らしいメリットがたくさんあります。統合によってそのメリットが失われてしまわないよう、責任を持って対応していただきたいと思います。
事務局	いただいた貴重なご意見は、協議会にしっかりとお伝えしてまいります。
参加者	資料 5 ページのアンケート結果について、「再編肯定（賛成＋やむを得な

	い）」が約 6 割とありますが、今日の意見を聞いていると、「やむを得ない」というのは、消極的な反対に近いのではないでしょうか。それを肯定側に入れて数字を示すのは、実態と乖離しているように感じます。どのようにお考えでしょうか。
事務局	本日の直川会場では、ほぼ反対のご意見が多かったと受け止めております。「やむを得ない」という回答を賛成と捉えるか、反対と捉えるかは解釈が分かれるところであり、画一的に肯定と捉えるのは難しい面があると感じております。
参加者	検討協議会でも、単純な数字だけで判断しないよう伝えていただきたいです。市長は「こどもがまんなか」を掲げておられますが、この再編案が本当に子どものためになっているのか、疑問に感じます。執行部として、その理念が共有されているのかも含め、市長にしっかり報告していただきたいと思います。
事務局	いただいた貴重なご意見は、協議会にしっかりとお伝えしてまいります。